



京都中部総合医療センター

Kyoto Chubu Medical Center

旧：公立南丹病院



平成29年5月に「公立南丹病院」から「京都中部総合医療センター」に名称を変更しました。病院の外観で大きく変わったのは看板の文字でしょうか。今回の表紙は名称変更を機に病院の全景を空から撮影したものです。国道と鉄道をまたぐ第二病棟との連絡橋が完成した時に撮影した写真と比べても病院を取り囲む街の風景は大きくは変わっていませんが、地域の高齢化など医療を取りまく諸問題は今後も課題となることでしょう。京都中部総合医療センターも医療を通じて少しずつ地域への貢献を積み重ね、地域を支える総合医療センターとなるよう努力を続けていきたいと思います。

経営管理課 なか い まさ し 中井 優志

臨床研修指定病院 地域がん診療病院 救急告示病院
日本医療機能評価機構認定病院 ヘき地医療拠点病院
第二種感染症指定医療機関 地域周産期母子医療センター
京都府地域リハビリテーション支援センター エイズ拠点病院
京都府難病医療協力病院 地域災害医療センター
DMA T 指定医療機関 認知症疾患医療センター

京都中部総合医療センター

〒629-0197 京都府南丹市八木町八木上野25番地
TEL 0771-42-2510代 FAX 0771-42-2096

<http://www.kyoto-chubumedc.or.jp>





病院の理念

地域の拠点病院として、患者さん中心の良質な医療を行い、地域に愛され信頼される病院を目指す。

患者さんの権利と責務

私たちは患者さんの権利を尊重し、十分な説明と合意に基づいた医療を行います。

1. 説明を受ける権利
2. 治療を選択する権利
3. 情報を知る権利
4. 個人情報保護を受ける権利
5. 自分の健康情報を正確に提供する責務
6. 説明を理解するまで問う責務
7. 病院での規則に従う責務

2017.10

Vol.36

秋号

CONTENTS

- 院長挨拶 ①
- 平成29年度地域医療連携推進事業... ②
- 地域医療連携の取り組み ③
- かかりつけ医を持ちましょう ③
- 安心してご退院いただくために ④
- 地域包括ケア病棟開設から1年 ⑤
- 赴任のご挨拶 ⑤
- 災害医療・救急医療..... ⑥
- 看護師として働き始めて ⑦
- 第71回京都南丹市花火大会を終えて ⑦
- 公立南丹看護専門学校 ⑧
- 近隣の連携医療機関の先生方 ⑨
- さかべ整形外科クリニック
- 医療法人如月会クリニック
- 第3回京都中部総合医療センター健康フォーラム..... ⑩
- 病院ボランティア募集中!! ⑩
- 世界糖尿病デーのイベント開催 ⑩
- 平成29年度 学校見学会のお知らせ
- 看護師・助産師募集
- 編集後記

爽やかな秋に

院長 ^{たつ み てつ や} 辰巳 哲也

蒸し暑い夏が続いていましたが、ようやく朝、夕に爽やかな風が吹き、秋の気配が感じられる季節となりました。近隣の水田でも稲穂が美しく実り、黄金色に輝いています。秋の行事といえば稲刈り、文化祭や運動会、紅葉観賞、若者の間ではハロウィンでしょう。最近、丹波の松茸を見る機会はほとんどありませんが栗や柿、梨、葡萄、秋刀魚などおいしい食材が揃うのもこの季節の楽しみの一つです。一方、台風の多い季節でもあり局地的な大雨などによる自然災害には今後も注意を怠らないように心掛けたいと思います。



さて、私たちの病院では毎年夏の終わりに京都府立医科大学からの御依頼を受けて地域医療教育推進事業を行っています。京都府立医科大学医学科と看護学科の学生を1週間お預かりして地域医療の実情や救急医療、チーム医療などを学んでいただいています。今年で7年目を迎えましたが、毎年南丹医療圏の開業医の先生方に診察の実習や講義に御協力いただいておりますことを、この場を借りて厚く御礼申し上げます。今年の実習プログラムでは初の試みとして、病院に通われている地域住民の患者さん2組をお招きして、患者として医師への願いや病院に対する思いなどを語っていただき、学生・スタッフとの討論会にも参加していただきました。学生の皆さんは実際の患者さんの生の声を聞くことで、患者さんは高い技術だけではなく患者と医療従事者との心のつながりも求められており、それがいかに大切であるかなど、あるべき医療人としての将来の姿が少し見えたのではないかと思います。また病院に対する温かい励ましのお言葉も頂戴し、私たちスタッフも新たに勉強させられることが多く、有意義な時間を持てたことを感謝しています。病院内では労務管理が厳しく指導され、過重労働を避けなければならない一方、医療における業務量が増え続けるなど解決が難しい問題がたくさんありますが、高品質な医療を提供しつつ、患者さんの声に真摯に向き合える心のこもった医療人の育成に今後も職員一同努力していきたいと考えています。

最近、近畿大学学長で外科教授の塩崎 均^{しおざき ひとし}先生の御講演を聴く機会を得ました。その中で、先生が長い医学人生で辿り着かれた医の原点は「人を思いやる心である」とお話しされ、「学問とは、人たる所以を学ぶなり」「生きるとは学び続けること」など胸に響く先人の言葉を紹介されました。医師だけではなく、医療に携わる者は生涯患者さんから学ばせていただく姿勢を忘れてはならないと思います。

平成29年5月より病院名を京都中部総合医療センターに変更し半年になろうとしています。相変わらずの人材不足はすぐには解消されそうにはありませんが、病院が地域の基幹病院として発展し、地域にお住いの方々に貢献できるよう努力を続けていきたいと思っています。そのためには地域での医療連携をさらに促進させ、多職種でのチーム医療を充実させていく必要があります。今後とも皆さまの温かい御支援、御理解を賜りますようどうか宜しくお願い致します。

秋が深まれば、お月見などをして静寂の中で虫の声を聞いてみたいものです。皆さまの秋が爽やかで実り多きものでありますように心よりお祈りしております。



地域医療教育推進事業での研修風景

平成29年度 地域医療教育推進事業

臨床研修管理委員会副委員長・消化器内科部長 かね まさ ひでとし 金政 秀俊

京都府立医科大学地域医療教育推進事業の実習を8月28日から9月1日までの5日間、当院において実施しました。医学科5回生15名、看護学科3回生2名が来院し病院内外で様々な実習を行いました。今年は京都中部広域消防組合消防本部・亀岡消防署の見学実習と当院の患者さんをお招きしたの懇話会を新たに企画しました。

8月28日は午前には亀岡消防署の見学、午後からは在宅緩和ケア、救急医療についての講義があり、その後4グループにわかれて様々な実習を行いました。翌30日午前中には地域の開業医の先生方のご協力のもと、開業医15施設での見学実習を行いました。午後からは宿泊研修施設に場所を移し、開業医見学の報告発表を学生グループ毎にしてもらいました。その後に平田クリニックの平田正弘先生にご講演いただきました。先生ご自身が経験された数々の貴重な症例を示され、それらを通して医師として重要なことについて学生に熱く語っていただきました。患者さんとの懇話会では、京都中部総合医療センターへの思いや患者側からの期待される医療者像や医療などについてお話しいただきました。学生からの質問に対しても回答いただき、実りのある実習ができました。31日には花ノ木医療福祉センターを見学しました。

この他にも訪問診療、訪問看護への同行、腎センター、薬剤部の見学、リハビリテーション、褥瘡/NST回診、緩和ケアラウンド、心臓カテーテル検査見学、救急室、ICT、DMAT活動などのたくさんの実習を行いました。最終日の午後にはグループ毎に本実習から学んだことや考えたことについて発表してもらいました。学生たちは普段、大学では学べないことをたくさん経験してくれたものと思います。そして一人でも多くの若い医師が地域医療に興味を持ってくれることを期待します。

最後に、本実習にご協力いただきました多くの方々に、この場をお借りして御礼申し上げます。



医学生

京都府立医科大学医学科5回生 わたなべ まなと 渡辺 真那斗



1週間の短い間ではありましたが、今回の地域実習において、京都中部総合医療センターの地域での役割や連携、地域の開業医の先生方、花ノ木医療福祉センター、DMATの機能など普段体験することができない多くのことを学ばせていた

できました。特に今年の実習から実際の地域住民の方々とお話をする機会を設けていただき、地域住民の方々の地域医療に対する思いなどなかなか聞くことができないお話を聞くことができました。そこで私が感じたことは、地域医療は我々にとって身近なものであるということです。私が日頃理想としている医師像は地域住民の方々の理想とする医師像そのものでありました。ただ地域医療においてはそれを行える人材が不足しているだけなのだと感じました。

今回の地域実習を通じて、地域医療が抱える問題点や地域医療を支えている多くの住民の方々の熱い思いを肌で感じることができ、非常に良い経験になりました。有意義な研修をありがとうございました。

看護学生

京都府立医科大学看護学科3回生 おかもと なな 岡本 奈々



1週間の地域実習では、京都中部総合医療センター、開業医の先生方、花ノ木医療福祉センターの見学のほか、地域に住んでおられる実際の患者さんよりお話を聞かせていただくという貴重な体験ができました。その中でも実際の患者さんか

らお話を聞かせていただいたことが一番印象に残っています。

京都中部総合医療センターが地域に根付いた住民に愛されている病院であると共に、医療者に求める像、これからの医療、地域医療などについてお話しいただきました。そこから、患者さんが求められていることや都市部よりも高齢化の問題が大きいという実状について知ることができ、地域医療とは何なのかを考えさせられました。

これからどのような医療者を目指していくかをとてもよく考えることのできた1週間でした。有意義な時間をありがとうございました。

地域医療連携の取り組み

地域医療連携室長・総合内科部長・呼吸器内科部長 かわの ひでひこ 河野 秀彦

平成26年5月に「医事課地域連携係」が「地域医療連携室」となり、約3年半が経過しました。その間少しずつスタッフが増え、現在は12名で活動しています。

地域医療連携に携わっていると高齢化社会の到来を強く実感します。ご高齢の患者さんは通院の足も限定され、ご家族に頼られることも多く、より身近な場所に通院されることを望まれます。地域の医療機関や保健、福祉の各機関と連携しあって、多くの患者さんがより近い場所での医療や介護を受けられるよう支援することが必要です。当連携室は、開業医の先生や地域の病院からご紹介いただいた患者さんの治療に迅速に対応できるよう、紹介元の先生と患者さんの情報提供を密に行います。入院中は病棟スタッフとのカンファレンスを通じて患者さんの状態を把握し、患者さんご家族の希望を確認しながら退院支援を行います。近年、高齢化や疾患によって退院に時間を要するケースは着実に増えてきています。当院は回復期リハビリテーション病棟や地域包括ケア病棟を有しております。こちらの病棟では在宅や施設への復帰をめざし、医師、看護師だけでなく理学療法士や管理栄養士なども加わって疾患の治療とともに、患者さんが日常生活を営む上での支援を行います。また担当のケアマネージャーや施設の方々とカンファレンスを行う際には、患者さんにかかわる多くの人に入ってもらい、細やかで必要な情報提供や支援ができるよう心がけています。

また、地域全体の医療の質向上のため、CTやMRI検査など医療機器の共同利用を促進したり、地域の開業医や病院の先生方のご依頼に即応できるよう、平成29年1月より予約受付時間を午後8時まで延長しております。

まだ十分ではないのですが、各医療機関への訪問や、連携の会議・研修会への参加や企画により、顔の見える関係を構築していきたいと考えています。これからもよろしくお願いいたします。



かかりつけ医を持ちましょう

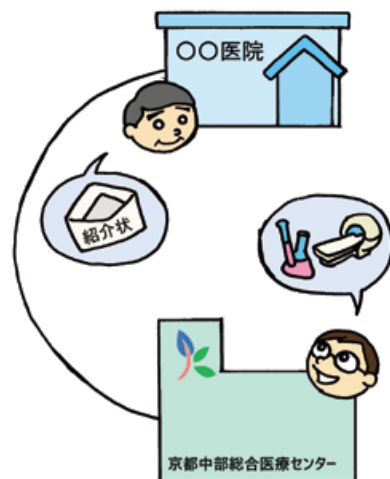
地域医療連携係 たなか ゆうじ 田中 裕詞

かかりつけ医とは、疾病の治療や定期的な検査、慢性疾患のフォローだけでなく、日頃の健康管理の相談もできる、最も身近な主治医のことです。多くは診療所やクリニックの先生方がその役割を担っております。

身近にかかりつけ医を持つことで・・・

- ・ 普段の体調や病歴などを把握してもらうことは、病気の早期発見につながります。
- ・ 健康管理のため食事や運動など、生活習慣へのこまめなアドバイスをもらえます。
- ・ 土曜日や午後の診察をされているところも多く、希望にあった受診が可能です。
- ・ お住まいや職場のお近くなど、通院をしやすいところを選ぶことができます。
- ・ 医師と長いおつきあいができます。

かかりつけ医を持っていると、必要なときに適切な医療機関を紹介してもらえます。その際に作成される紹介状には、診察内容や病歴などの情報が記載されますので、紹介先でスムーズに受診いただくことができます。当院は地域の中核病院として、入院加療や専門的な検査、手術が必要な場合などに、かかりつけ医の先生方を支援する役割を担っております。当院を受診される際は、ぜひ紹介状をご持参ください。



地域医療における薬剤師の関わり

副薬剤師長 ^{むらやま けい こ} 村山 佳子

病院薬剤師と地域の保険薬局薬剤師が患者さんの薬物療法に関する情報を共有し、入院前から退院後まで安全で効果的な薬物療法を継続できるよう連携しています。

お薬手帳や退院時薬剤情報提供書を用いて、入院前に使用していた薬剤、アレルギーや副作用、入院中の処方変更の内容や理由、一般医薬品や健康食品、薬の服薬状況、薬の調剤方法などの情報を提供しています。また、外来での抗がん剤の治療計画について、患者さんの同意のもと保険薬局へ提供し、患者さんに副作用などを確認していただき、その情報を主治医にフィードバックする取り組みも行っています。これらの情報を互いに共有することで、退院してからも副作用発現時の対応や生活上の注意点など、患者さんへの適切な指導が可能となります。

今後、病院と保険薬局間の連携だけでなく、地域の保険薬局以外の医療関係機関とも薬剤情報を提供して連携を深め、患者さん・ご家族に安心・安全な地域医療を提供できるよう努めてまいります。

地域と連携した栄養指導

管理栄養士 ^{もりやま しゅん} 森山 瞬

栄養科では糖尿病・腎臓病・心臓病等の疾患をお持ちの患者さんを対象に、入院・外来を含め、年間約2,000件の栄養指導を実施しております。

その中には普段は診療所にかかられて、栄養指導で当院を受診していただいている患者さんもおられます。具体的な連携としては、通院先の主治医から紹介していただき、栄養指導を予約させていただきます。当日は外来を受診いただいた後、栄養指導を受けていただきます。栄養指導終了後は紹介元の主治医に診療情報提供書を郵送し情報の共有を図っております。継続的な栄養指導をご希望の患者さんには、日程調整をおこない定期的に栄養指導を受けていただいています。

今後はさらに地域の診療所と連携し、多くの患者さんと関わりを持てたらと考えております。地域の中核病院として「食事」「栄養」という分野から適切にサポートしてまいります。どんな些細なことでも結構ですので、食事や栄養のことでお困りのことがあればお気軽に栄養科までご相談ください。

安心してご退院いただくために

退院調整係主任・社会福祉士・MSW ^{ふなこし ゆみ} 船越 由美

退院調整係では社会福祉士の資格を持つMSW（医療ソーシャルワーカー）3名、退院調整看護師2名が入院患者さんの在宅退院支援および地域の医療・福祉等の関係機関との連携を行っています。がんの終末期や認知症の高齢者、家族の介護困難など、退院支援の必要な患者さんは増加していますが、病気・治療が落ち着いた患者さんが安心して自宅や地域の病院・介護施設等へ移行できるよう医師や病棟看護師、リハビリ担当者、薬剤師や管理栄養士など様々な職種と協働してサポートしています。

当院では65歳以上の患者さんが入院された際には退院支援・調整が必要であるかどうかを早期に判断するため、入院時に自宅での生活やサービス利用状況などの情報収集と確認を行っています。そして、支援・調整が必要な患者さんには、病棟看護師・医療ソーシャルワーカー・退院調整看護師で情報を共有し、患者さん及びご家族の希望を確認しながら、必要とされる支援が円滑に受けられるよう地域の医療・福祉等の関係機関と連携を図っています。

各病棟担当の医療ソーシャルワーカー、退院支援看護師が患者さん及びご家族からのご相談や退院支援・調整に応じております。病気の発症に伴う退院後の生活への不安や在宅介護、療養先などの様々なご相談やご要望、お問い合わせ等ございましたら、お気軽に地域医療連携室退院調整係までお声掛けください。



地域包括ケア病棟開設から1年

第二病棟4階東・地域包括ケア病棟 副看護師長 ^{かわい しんこ}河合 神子

当病棟は平成28年8月より地域包括ケア病棟として、病状の落ちついた患者さんに対して在宅や介護施設への復帰に向けた支援を行う病棟として稼働しました。また在宅療養されている患者さんのご家族を支援するために、レスパイト入院（在宅医療を支えるための入院）の受け入れも行っています。詳細につきましては病院ホームページを御覧ください。

「患者さんの生活の質」を考え、医師、看護師、介護福祉士、看護補助者、専従の理学療法士、言語聴覚士と連携を取りながら、日常生活動作が回復するよう関わっています。また、地域医療連携室とも連携を取りながら「適切な時期」「適切な場所」で療養生活ができるように考え、退院調整をさせていただいています。

入院患者さんとは高齢の方が多いため、日常生活動作が低下し環境の変化から認知機能の低下を招くこともあり、少しでも予防につながるように毎週水曜日には集団リハビリでリズム体操をしたり、ボール遊びや輪投げなど遊ビリテーションを行っています。ボランティアの方も参加され、協力をしていただいております。少しでも入院生活を楽しんでもらい活動意欲につながればと考え、今年7月には、介護福祉士や看護補助者が中心となり七夕祭りを行いました。



病棟の機能上、限られた期間の支援・援助となりますが、今後も多職種と連携を取りながら、患者さん・ご家族が住み慣れた地域、在宅で安心して療養生活を送ることができるように努力していきます。地域の皆さまのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

赴任のご挨拶

小児科医員 ^{あさだ だい}浅田 大

平成29年10月より、小児科医員として働かせていただきます。平成18年大阪市立大学卒業後、京都府立医科大学、昭和大学で小児科、小児循環器の研鑽を積んで参りました。まだまだ未熟ですが、これまで学んだことを還元し、また新たに多くを学んでいきたいと思ひます。ご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願ひ致します。



災害医療・救急医療

政府大規模地震時医療活動訓練を通して

日本DMAT隊員 くぼた だい き 久保田 大樹

今後50年以内に90%以上の確率で起こると想定されているマグニチュード8以上の南海トラフ地震。南丹医療圏においても被害の可能性があると考えられています。それに備えた政府の大規模地震時医療活動訓練に、当院DMAT（災害派遣医療チーム）も参加しました。全国から330病院、351チームがそれぞれの場所にて訓練を行うなか、当院DMATは、大阪八尾空港における広域搬送拠点臨時医療施設（SCU）の立ち上げと傷病者への対応および海上保安庁ヘリコプターによる滋賀医科大学附属病院への傷病者搬送を行いました。

消防・警察・自衛隊などさまざまな関係機関と調整をはかり、傷病者の生命を最優先に考えた訓練にチームとして懸命に取り組みました。

地震災害や津波災害など、災害にも色々な種類があります。いずれであっても平時の救急対応とは違い、災害の現場では大きな混乱と甚大な被害をもたらします。地域災害拠点病院として一人でも多くの命を守るべく、迅速・的確に事象を捉えたうえで、限られた医療資源や機材のなかでの最善の医療に努められるよう日々の訓練や準備に努めていきます。そして、今後も地域の住民の方々における安心・安全のために関係施設との調整を日頃から大切にしていきたいと考えます。



第3回 梶田記念ICLSコース

救急看護認定看護師 くぼた だい き 久保田 大樹

目の前で苦しんでいる患者さんを守り、助けるのが私たち医療従事者の務めです。そして万が一、患者さんが突然の心停止になられた場合には、患者さん救命のための蘇生技術が必要とされます。

当院でも10年前より医療従事者向けに日本救急医学会が認定するICLS（Immediate Cardiac Life Support）コースを定期的に開催しています。今回は南丹地域医療圏施設からも受講者を募り、活気のある充実した研修となりました。今後も1人でも多くの患者さんが救命、社会復帰されますよう努めていきます。

ICLSコースを受講して

第二病棟4階東・地域包括ケア病棟 とみむら ま み 富村 真実



以前より急性期看護に興味があったことと、突然の心停止に遭遇した際の適切な判断や指示への知識を深めたいと思い、今回ICLSコースを受講しました。

研修は、実践主体の内容で構成されており、まずBLS（一次救命処置）では胸骨圧迫（心臓マッサージ）やAEDの使用など基本的な手技、流れを学ぶことができました。次に、ALS（二次救命処置）における呼吸を助けるための気管挿管や不整脈を正す電気ショックなど、より高度な介入方法についても学ぶことができました。研修後半では、ある事例が用意され、研修の前半で得られた学びを統合し実践できる内容となっており、その場に応じた対応

やチーム間での実践能力が問われました。事例のなかには病院外を想定した事例もあったため、様々な状況下での救命方法についても考え実践することができました。

私たち医療従事者には、患者さんの救命のために様々な職種間で情報共有を行い、患者さんにとって的確で迅速な対応を実践することが必要とされます。そして救命だけでなく、その後の社会復帰を考慮した対応も必要とされます。今回の研修を踏まえ、看護師としての自分自身の役割をしっかりと認識し患者さんの突然の心停止に遭遇した際にも、命を守るための優先性を考え実践していきたいと思えます。

看護師として働き始めて



回復期リハビリテーション病棟

ただち あかね
田立 茜

回復期リハビリテーション病棟で働きはじめ半年が経ちました。初めは慣れない環境下で毎日不安でいっぱい目前のことに集中するので精一杯でした。

しかし先輩方の時に厳しく、時に優しい指導のおかげで、少しずつ業務にも慣れ、広い視野で一人ひとりの患者さんと関われるようになってきました。

まだまだ分からないことばかりですが看護師としての自覚と責任をしっかりと持ち、安全安楽な看護を提供するだけでなく、一人ひとりの患者さんの心に寄り添った看護を提供できるように日々精進していきたいと思っています。



手術室 きたむら 北村 こころ 心

オペ室に配属が決定した時、とても嬉しくドキドキとした気持ちでロッカールームを案内していただいたことを今でも覚えています。しかしその反面、「私にやっていけるのだろうか?」という不安もありました。

入職から今日まで先輩方のご指導や学生時代の先生、友人の支えがあり、今とても充実した日々を過ごしています。

今の環境を大切に、日々向上心を持ちながら今後の術中看護に活かしていきます。

第71回 京都南丹市花火大会を終えて

京都南丹市花火大会実行委員会 事務局 さいとう たけし 齊藤 武志

平成29年8月14日、第71回京都南丹市花火大会が開催されました。まずは大きな事故もなく無事終えることができたことを、ご協力ご支援いただきました関係者の皆様方、観覧者の皆様に厚く御礼し、また感謝申し上げます。

戦後間もない昭和22年に戦没者の慰霊と町の人々の慰めにと20発の花火で始まったこの大会も今回で71回目を迎え、約5,000発の花火が打ち上げられました。打ち上げ時間中は風も程よく吹き、煙の滞留も少なくきれいな花火が観賞できたのではないのでしょうか。京都南丹市花火大会は、花火の光と音、川面に映る花火や灯ろうの灯りなど、このロケーションでしか味わえないものがあると賞賛のお言葉をいただきます。

年々来場者は増加傾向にあり、本年度は実行委員会が予想していた以上の人出となり過去最高の来場者数となりました。それに伴い車での来場者、観覧者の誘導など例年にはなかった問題が発生していました。その一方、ゴミに関しては年々減少傾向になっております。来場者のマナーの向上と八木中学校様、またボランティア様のご協力のおかげかと思えます。会場内の場所取りも15時からということも皆様守ってください、大堰橋の通行止めに



関しても皆様のご理解をいただき、年々来場者様のご理解ご協力が深まってきているように感じます。

府外から参加いただいた20名程度のボランティアを含め今年度の大会当日には400人弱の運営スタッフが関わっております。来場者が増えるとスタッフも増やさなければ安全面の確保が難しい状況ですので、次回以降の課題として人的支援をどのようにして充実させるのが第一の課題かと思えます。また次回開催にむけて関係機関、地元住民様、南丹市外からの来場客や皆様方のご意見を参考にし、より多くの皆様が愉しんでいただけるよう、より良い花火大会にしたいと思っています。

平成29年オープンキャンパスを終えて

副学校長 もり みずえ
森 瑞枝

各学校が夏休みに入るこの時期、来年入学希望の方に向けてオープンキャンパスが開かれます。学校の特色をアピールし、多くの学生さんに来ていただき学校選択の検討に加えていただきます。当学校は看護学校ですので、「看護の勉強って何?」「看護師さんになるには何が必要?」といった声に答えるため在校生と教員で企画しています。

今回はその様子をお知らせします。
暑期中、高校生から30代の社会人の方まで80名近くの方々が参加して下さいました。

①多目的ホールで保護者の方々にも参加いただき学校紹介

- ・学校の歴史・教育理念
- ・カリキュラム・単位認定
- ・授業の様子
- ・演習風景
- ・学校行事
- ・3年間の学校生活
- ・修学資金

②グループに分かれ学校案内

③各ブースでの体験

- ・血圧測定
- ・パルスオキシメーター測定
- ・シーツ交換
- ・人形を使った赤ちゃん抱っこ
- ・在校生が先生の模擬授業

④在校生達とグループトーク

- ・どんな勉強するんですか?
- ・バイトとかできますか?
- ・どこの高校からきてますか?

といった質問に答えながら
交流を行いました。

あっという間に時間は過ぎ、「先輩たちが優しかったです。」「学校のことが良くわかりました。」などの声をいただきました。

参加して下さいました皆様の中から、来年の春と一緒に看護を学べる方が来て下さることを期待して閉幕となりました。



近隣の連携医療機関の先生方

『開院のごあいさつ』

さかべ整形外科クリニック

院長 さかべ ともや 坂部 智哉

私は、平成20年10月から平成28年6月まで亀岡市立病院に勤務し、平成28年12月1日に亀岡市中矢田町で整形外科クリニックを開院させていただきました。開院してまだ1年に満たないクリニックにも関わらず、貴院広報誌への寄稿の機会をいただきましたことを深く御礼を申し上げます。

私は昭和45年10月に公立南丹病院（今の京都中部総合医療センター）で生まれ、高校2年生まで船井郡日吉町（今の南丹市日吉町）で育ちましたので、病気や怪我をしたときはいつも公立南丹病院でお世話になっておりました。平成29年5月から京都中部総合医療センターへ名称を変更されたことは、公立南丹病院に慣れ親しんだ私としては寂しい限りですが、新たな決意のもと南丹医療圏の地域医療の充実を目指して行かれることを頼もしく思っております。

亀岡市立病院在任中は同じ南丹医療圏の病院として負けないように、自分なりの特色をいかした診療を行おうとしてきました。特に肩関節疾患およびスポーツ障害においては、関節鏡手術とリハビリテーションを精力的に行ってきましたし、開業医となってもこの点はクリニックの特長としていきたいと考えております。今後は「地域の皆さまが笑顔で健康的な生活が送れるように、最新かつ適切な医療サービスを提供すること」を医療理念として掲げ、患者さまとのコミュニケーションを大切にし、質の高い誠意ある医療を行いたいと考えております。

まだまだ、南丹市では当クリニックの認知度は低く、南丹市からの患者様は数少ないですが、貴院と密に連携させていただけるようなクリニックを目指して日々精進していきたいと考えております。今後ともご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



『地域医療に貢献できる』

精神科クリニックをめざして』

医療法人如月会クリニック

院長 たかはま せいじ 高浜 聖二

当院はJR園部駅（西口）から徒歩5分の場所に、心療内科・精神科専門のクリニックとして平成28年11月に開院しました。私のほかに事務職員3名の体制で、診療日時は月・水・金曜日の10時～16時です。外来と往診（訪問診療）をおこない、特に往診は訪問看護と密に連携しています。また、精神科という特性上、初診が往診というケースにも柔軟に対応しております。

開院に先立って船井医師会の玄野会長に相談したところ「メンタル（精神）ですか。園部にはないのでありがたいです」と言っていただきました。その後、地域の先生方と顔合わせの機会を設けていただき、認知症の勉強会でもお時間を頂戴しました。それもあり、実際に患者さんの紹介をいただくことも増えてきました。また、逆に内科・外科疾患等に関する当院からの紹介に対しても快く受けて下さっています。本当に心強く思っております。保健所や市役所、ケアマネージャーさんからもご相談をいただき、ありがたく思っております。

京都中部総合医療センターについては、認知症疾患医療センターの佐藤先生と私は共に研修医時代を過ごした仲であり、ご縁を感じております。認知症画像診断としてのMRI等の検査依頼はもとより、退院患者さんの当院へのご紹介でも大変お世話になっております。ご期待に応えられるよう、これからもスタッフ一同尽力してまいります。

地域の診療所を支える中核病院として、今後ともご指導・ご支援をいただきますようお願い申し上げます。



第3回

京都中部総合医療センター 健康フォーラム

入場
無料

今年も京都中部総合医療センター健康フォーラムを開催いたします。
病院スタッフによる健康や医療に関する役立つ知識や各種ブース展示、
特別講演などを予定しています。

日時 平成29年12月16日(土) 13:00~17:00

場所 ガレリアかめおか 2階 大広間

特別講演は「大阪大学人間科学研究科 臨床死生学・老年行動学講座」の権藤 恭之准教授にご講演いただく予定です。詳しくは病院ホームページや院内ポスター等にて順次お知らせいたします。
皆様のご参加をお待ちしております。

<http://www.kyoto-chubumedic.or.jp>



平成28年に開催された健康フォーラム

病院ボランティア募集中!!

あなたの優しい笑顔と言葉が患者さんの病気回復への大きな力になります。

少しの時間とやさしい心を私たちに貸していただけませんか？

当院では、私たちと一緒に活動していただけるボランティアさんを募集しています。

＜内容＞ ・病院受付や院内施設のご案内
・院内での移動介助のお手伝いなど



ボランティアさん活躍中！

お気軽にお申し込み、お問い合わせください。

＜お問い合わせ・申し込み＞

京都中部総合医療センター 0771-42-2510(代)
担当 中川 (平日9:00~17:00)

世界糖尿病デーの イベント開催

京都中部総合医療センターでは、毎年11月14日の世界糖尿病デーにあわせて、イベントを開催しています。
今年も下記の日程での開催をいたします。様々なブースを用意してお待ちしておりますので糖尿病の方も、そうでない方も、お気軽にお越しください。

- 日 時：11月14日(火) 10:00~13:00
- 場 所：本館2階 大会議室
- 内 容：血糖測定・フットチェック
運動相談・栄養相談
薬の相談など



平成28年糖尿病デーイベントの準備中

平成29年度 学校見学会のお知らせ

公立南丹看護専門学校では、看護師を目指す人々に看護学校について、知っていただくことを目的とし、オープンキャンパス・学校見学会を行っております。

●学校見学会

日 時:平成29年10月28日(土) 10:00~11:00

(申込受付 平成29年10月20日(金)17時まで)

内 容:学校紹介・学校内見学・個別相談など

〈申込について〉

①電話またはホームページで次の事項を申し込んでください。

・氏名 ・学校名(在学校or社会人) ・連絡先(T E L)

②同伴される保護者がおられましたら教えてください。

受付は30分前より行います。駐車場はありませんので公共交通機関をご利用ください。

〒629-0196 京都府南丹市八木町南広瀬上野3番地1 公立南丹看護専門学校

お問い合わせ: TEL 0771-42-5364 / FAX 0771-42-5422

<http://www.nantan-kango.ac.jp>



看護師・助産師募集 (正職員・臨時職員)

正職員・臨時職員共に院内保育所の利用ができます。
看護師寮(正職員のみ)の利用も可能です。(月額10,480円)

〒629-0197 京都府南丹市八木町八木上野25番地

京都中部総合医療センター 総務課人事係

TEL 0771-42-2510(代) まで

詳しくはホームページをご覧ください。

<http://www.kyoto-chubumedc.or.jp>



編集後記

今号では地域医療連携をテーマとした記事を多く取り上げ掲載しています。京都中部総合医療センターとして活動している中で地域や皆様とのつながりや取り組みを紹介する内容となっています。

京都中部総合医療センターの名称も地域の皆様に少しずつ覚えていただけますよう、様々な情報を発信していきますので、今後ともご愛読よろしくお願いします。

広報委員 Y.T.

